

1. 学校名 対象（学年、人数）  
只見町立只見中学校 （全校生徒 77名）
2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ

地域と共に海を守り、持続可能な社会の実現のために私たちができること。

目 標

俯瞰的に物事を捉え、自ら意欲的に探究する心を育てる。

(2) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること）     | <input type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に）               |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている） | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること） |
| <input type="checkbox"/> 有限性（限りがある）               | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制（責任を持って）       |
| <input type="checkbox"/> その他（ ）                   |   |

②育成する資質・能力

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力                 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力    |
| <input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力          | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力  | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度   |
| <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 |   |

(3) 関連する SDGs



3 すべての人に健康と福祉を 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう  
15 陸の豊かさを守ろう 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

(4) 探究課題・活動実践の概要

本校では、地域と共に学ぶ生徒の育成を念頭におき、ESD を行っている。総合的な学習を軸として教科等横断的な取組をしている。具体的には、生徒が新聞紙レジ袋や米袋をつくり、地域で利用していただいている。また、ペットボトルの利用を控える呼びかけを行っている。これらの活動については地域に協力していただいているが、地域にとっても中学生が大きな役割を担っているという認識につながり生徒たちの取組に対する理解が広がっている。特にマイクロプラスチック削減のためにプラスチックの利用について上流に住む私たちが留意することで、海の環境をよくしようとする意識が地域でも見られるようになってきた。

さらに、生徒会では募金活動や子供服の寄付など世界問題についても考え自分たちができる取組を実践することで、広い視野をもち多面的・総合的に考える力の育成を図っている。

3. 流れ（指導計画の概略）

活動の中心は生徒会専門委員会のSDGs委員会（1～3年生 10名）が行っている。

★地域とともに山あいから海を守る活動★

① 新聞紙、米袋再利用によるレジ袋

地域企業（奥会津蒸留所：ねっか、ヤマザキショップ只見松屋店、あいあい薬局等）のレジ袋（ねっかは米袋の再利用、その他は新聞紙の再利用）を作製している。活動としては、利用してもらっている店舗の在庫確認、地域内外への発信として様々なイベントでの新聞紙レジ袋作製教室を行っている。

② PET free Monday (ペットフリーマンデー) の実施

中学校に通う生徒及び教職員の家庭で、月曜日にはペットボトル飲料を控える活動をしている。また、その啓蒙活動をおこなっている。

③ 活動発信

①②のみならず、地域とともに行っている活動を大学や研究発表会に積極的に参加している。

4. 効果・反応・所感

この活動を数年前から継続・発展させることで地域、そして地球を守る活動につなげている。また、地域内外のイベントに赴き、新聞バッグ作製の講習を行うなどして、作製方法の普及を実践している。なお、貧困地域の子どもたちのために子ども服を回収するプロジェクトに参加するなど、身近な地域のことだけでなく世界に目を向け多面的・多角的に物事を見て考える力の育成を図っている。

今後の課題としては全ての活動において意識が高い生徒とそうでない生徒がいることである。自分たちの活動により、誇りと責任をもち、問題を自分事として捉えることができるような取組の改善をしていくことが必要であると感じる。さらに、地域への発信も含めて地域の人との交流の場や活動についての情報発信の手段を考え、実践していくことが今後の課題である。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

昨年、教育委員会と地域の企業が ESD パートナーシップ連携協定を結んでいる。これらの企業とどのようなことができるかを探っていきたい。また、これを他の地域の模範となるように研究を進めていきたい。さらに、学校と地域の結びつきを強固なものとするために、協力することができるように情報発信を含めて体制づくりを進める必要がある。